

## 第2回道路技術懇談会における主な意見

---

## 第2回道路技術懇談会における主な意見

主な意見	事務局回答(質問に対し)
<ul style="list-style-type: none"><li>• 現場ニーズは次々に変わっていくため、ニーズを抽出し求められる技術を提示するというサイクルを繰り返していかなければならないのではないか。</li><li>• コロナ禍で現場に出られない状況の中、仕事をリモートでできる技術のニーズが高まる可能性があるため、柔軟に将来像をイメージしつつ取り組みをすすめていけばよいと考える。</li><li>• リクワイヤメントの「従来と同程度」という確認を行うのは、経験上労力を要すると考えるため留意したほうがよいのではないか。</li><li>• 安価と安全は対極の関係にあることが多いとともに、安全を金額で評価することは難しいが、どのような考えか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 今回はスタートであり、今後、ニーズ側、シーズ側の変化に対応できるよう継続してまいりたい。</li><li>• 課題として認識しており、確認方法をしっかり考えて進めてまいりたい。</li><li>• 安全については、定量的な評価は難しく、コスト等とのトレードオフの対象外として、しっかり求めてまいりたい。</li></ul>

## 第2回道路技術懇談会における主な意見

主な意見	事務局回答(質問に対し)
<ul style="list-style-type: none"><li>• 新技術の導入を促進する方向性は土木学会の方針とも一致している。国土交通省には、土木学会を含めた産学官の連携にも留意して欲しい。</li><li>• 技術を評価する指標であるコストには、直接工事費だけでなく、時間短縮や省力化を含めた幅広い概念が含まれていることに留意すべき。</li><li>• 長寿命化に関する新技術に対し、技術の実証を設計段階で設計者に求められることは負担となる懸念があるため、今後検討して欲しい。</li><li>• トレードオフの観点から、求める「精度」についてどのような考えか。重交通を担う道路と、交通量が少ない市町村道とで、求められる精度も異なるとも考えられる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 総合的なコスト評価が必要であり留意したい。</li><li>• 装置(機器)単体の精度のみでなく、例えば全体として求める要求を満たしていればよいという考えである。</li></ul>